

故宮嶋弘教授略歴並業績

- 明治三八年 一月二日 京都市左京区北白川西町七九ノ二に
生まる。
- 大正七年 四月八日 立命館中学校に入学。
- 大正八年 四月一〇日 京都府立第二中学校第二学年に編入
学。
- 大正十二年 三月二五日 同卒業。
- 大正十四年 四月八日 第三高等学校文科丙類に入学。
- 昭和三年 三月二五日 同卒業。
- 昭和三年 四月一〇日 京都帝国大学文学部文学科に入学。
- 昭和六年 三月二五日 同卒業。
- 昭和六年 四月一日 京都帝国大学大学院に入学。
- 昭和六年 四月一日 京都帝国大学文学部副手となる。
- 昭和七年 三月三一日 右解任さる。
- 昭和七年 四月一日 同志社大学予科教授となる。
- 昭和二〇年 八月三一日 右解任さる。
- 昭和二十二年 四月一日 関西大学講師となる。
- 昭和二十二年 四月一日 立命館大学講師兼専門学校講師（非
常勤）となる。

故宮嶋弘教授略歴並業績

- 昭和二十一年十一月一日 立命館大学専任講師兼専門学校講師
となる。
- 昭和二十二年 四月一日 立命館大学教授兼専門学校教授とな
る。
- 昭和二十三年 三月三一日 関西大学講師解任。
- 昭和三八年 七月十四日 心臓衰弱のため逝去。

一、著書

源氏物語

関書院 昭22・7

二、論文

- 願望「なも」についての一考察 国語国文 昭7・9
- 万葉集卷十論 万葉講座（春陽堂） 昭8・7
- 万葉集の語法二つ 京都帝大国文学会記念論文集 昭9・
- 万葉集の「がに」「がね」考 国語国文 昭13・6
- 万葉集卷五の編纂者附雑考 国語国文 昭14・8
- 大鏡の著者は源俊房か 国語国文 昭14・12
- 万葉仮名「安」「阿」について 国語国文 昭15・12

| | | |
|-----------------------------------|-----------|--------|
| 比叡山の語原 | 同志社新報 | 昭16・3 |
| 万葉仮名「倍」を廻りての考 | 国語国文 | 昭17・3 |
| 「莫囂図隣」の歌の考 瀧沢久考編「万葉雜記」 | | 昭17・10 |
| 万葉仮名「義」の使用時より上宮聖徳法王帝説 の著述年代を考ふ | 国語国文 | 昭17・12 |
| 平安時代中期以前のハ行子音 | 国語国文 | 昭19・2 |
| 古事記は山城国葛野郡で書かれた | 国語国文 | 昭20・9 |
| 古事記「久方の天の香具山」の歌の解 | 立命館文学 | 昭23・6 |
| 「おはす」の研究 | 龍谷大学国文学論叢 | 昭23・7 |
| いろは歌作成年代考 | 立命館文学 | 昭24・11 |
| 鈴虫・松虫の語原 | 平安文学研究 | 昭24・12 |
| 仮名「ツ」「ワ」の字源 | 龍谷大学国文学論叢 | 昭24・12 |
| 古代民謡解釈の方法 —倭健御葬歌の原歌— | 立命館文学 | 昭26・2 |
| 平安時代のハ行ワ行子音とア行母音 | 説林 | 昭26・11 |
| 方言関係諺史 | 〃 | 昭27・12 |
| 古代日本著名人名字由縁考 | 龍谷大学国文学論叢 | 昭28・1 |
| 仏足石と仏足石歌 | 〃 | 昭28・10 |
| 「オ」の万葉仮名 | 立命館文学 | 昭29・12 |
| トンボの古語の語原 | 〃 | 昭31・2 |
| 「平安時代中期以前のハ行子音」続考 | 〃 | 昭31・10 |
| 上宮記著作年代考 —万葉仮名「里」の使用より観て— | 〃 | 昭32・12 |
| 「奈良七重七堂伽藍八重桜」の句 | 論究日本文学 | 昭33・11 |